

男女共同参画に関する北海道・東北の生協組合員と職員の意識調査

2009年2月25日

日本生協連 北海道・東北地連

男女共同参画委員会

I 調査方法

1. 調査概況

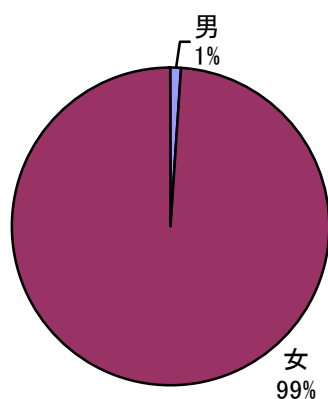
- (1) 調査方法 アンケート用紙を配布
- (2) 調査対象 北海道・東北6各県の生協組合員と職員
- (3) 回答生協数 8生協
- (4) 回答者総数 組合員805名、職員676名
- (5) 調査期間 2008年8月～9月

2. 調査機関 日本生協連北海道・東北地連 男女共同参画委員会

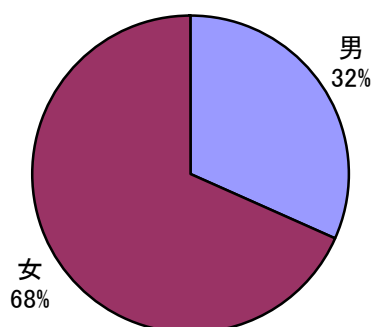
3. 分析 単純集計

※男女比

【組合員】805名

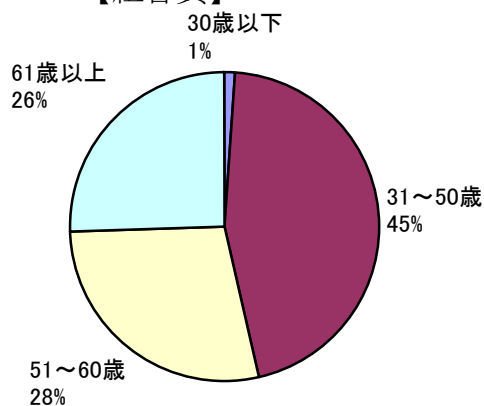


【職員】676名

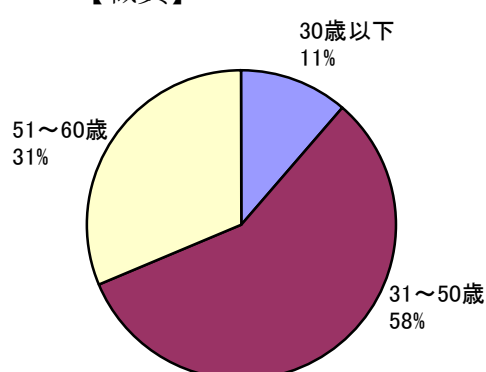


※年齢比

【組合員】



【職員】



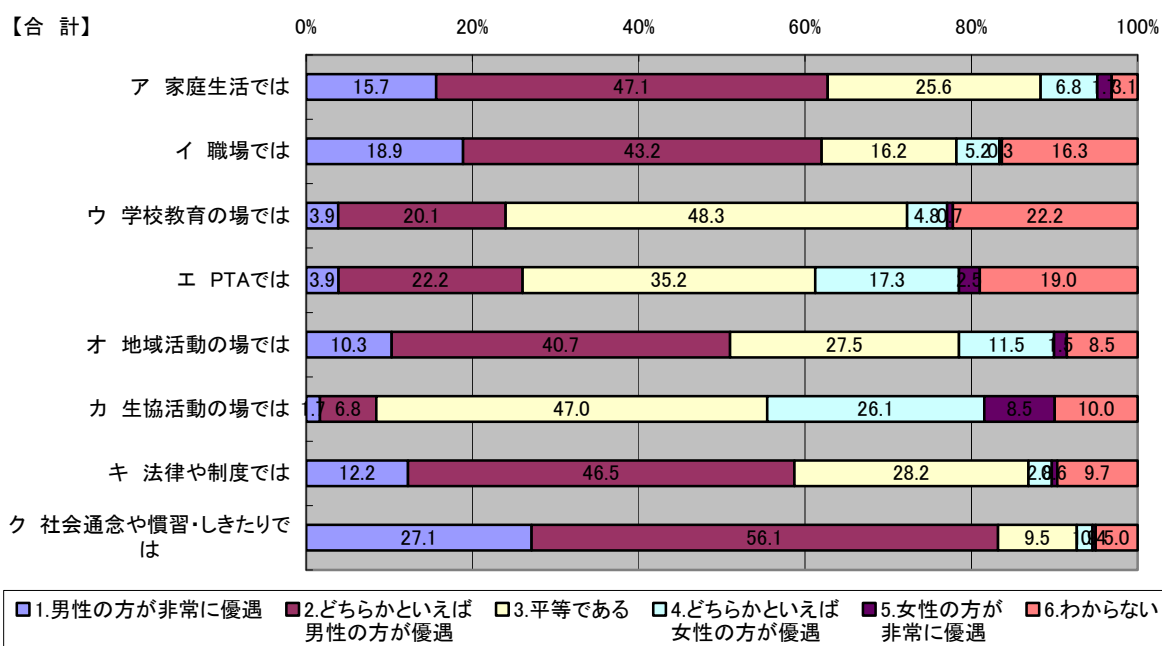
II 生協組合員アンケート調査結果

I. 調査結果の概要

1. 「男女共同参画に関する意識調査」について

設問「あなたは、社会全体を見回したとき、次に掲げるような分野での男女の地位は、平等になっていると思いますか。」

- ア. 家庭生活では
- イ. 職場では
- ウ. 学校教育の場では
- エ. PTA では
- オ. 地域活動の場では
- カ. 生協活動の場では
- キ. 法律や制度では
- ク. 社会通念や慣習・しきたりでは



(1) 「男性優遇」は、「非常に」と「どちらかといえば」の合計で、ク) 社会通念・慣習・しきたり (83.2%)、ア) 家庭生活 (62.8%)、イ) 職場 (62.1%)、キ) 法律・制度 (58.7%) の順で、社会通念やしきたりでの男性優遇が圧倒的に高い。また、この社会通念やしきたりでの「平等」は (9.5%) に過ぎず、他の項目の比較で最低となっている。

(2) 「平等」では、ウ) 学校教育の場 (48.3%)、カ) 生協活動の場 (47.0%)、エ) PTA (35.2%) の順に高く、学校教育と生協活動は半数近くが平等感を持つ

ている。

(3) 「女性優遇」は、「非常に」と「どちらかと言えば」の合計で、カ) 生協活動の場 (34.6%)、エ) P T A (19.8%)、オ) 地域活動 (13.0%) の順で、生協活動が他の項目比較でも圧倒的に高い。

(4) 全般的には、県別に特に大きな差は認められない。

2. 「分担の実態」について

設問「あなた自身の子育て・家庭生活・地域活動での分担の実態に関して」

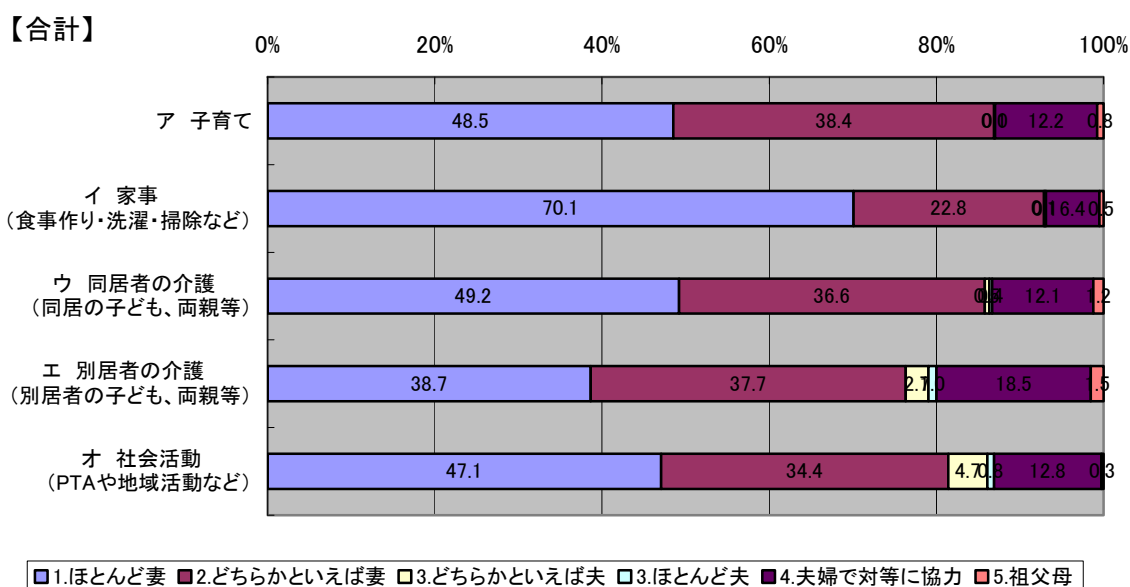
ア. 子育て

イ. 家事 (食事作り・洗濯・掃除など)

ウ. 同居者の介護 (同居の子ども、両親等)

エ. 別居者の介護 (別居者の子ども、両親等)

オ. 社会活動 (PTA や地域活動など)



(1) どの項目も、「ほとんど」と「どちらかといえば妻」の合計は 80%程度を占めている。子育て、家事、介護、地域活動などは妻が担っている実態がわかる。

(2) 夫婦協力しての割合は、ほぼ 10%台となっている。

(3) 夫、祖父母が担う比率はいずれも低い

(4) 別居者の介護については、「夫婦で対等に協力」の割合が、岩手県 (22.2%) と北海道 (26.0%) で高く、他県 (合計 18.5%) と大きな差がでている。同居率や回答者の年齢構成の違いが要因と推測される。

(5) 子育てについては、「夫婦で対等に協力」の割合が、岩手県・山形県・北海道で 15%前後の比率になっており、他県 (合計 12.2%) より高くなっている。

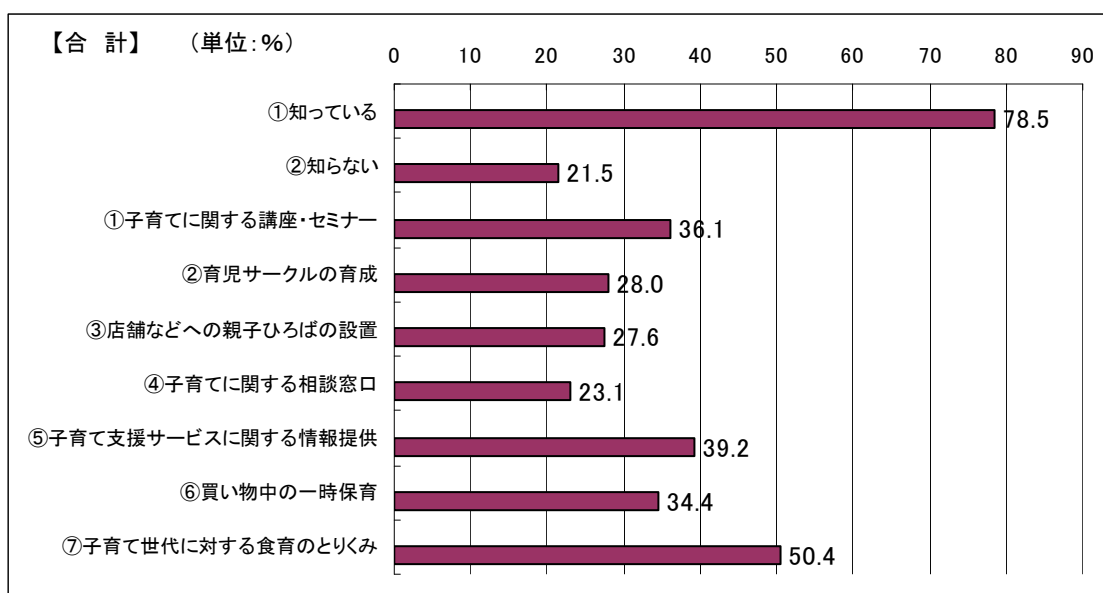
3. 「生協の子育て支援活動への要望」について

設問1 「生協は店舗に親子ひろばを開設したり、出前子育て講座など子育て支援に取り組んでいます、そのような活動をしていることを知っていましたか」

- ① 知っている
- ② 知らない

設問2 「生協が子育て支援で取り組んで欲しい活動は何ですか。」

- ① 子育てに関する講座・セミナー
- ② 育児サークルの育成
- ③ 店舗などへの親子ひろばの設置
- ④ 子育てに関する相談窓口
- ⑤ 子育て支援サービスに関する情報提供
- ⑥ 買い物中の一時保育
- ⑦ 子育て世代に対する食育のとりくみ



(1) 生協が行っている各種の「子育て支援活動」についての認知度は、北海道、岩手県で90%を超えている。生協の日常活動についてきちんとお知らせを行っていることが伺える。また、認知率が高いと要望も多いという傾向が見られる。

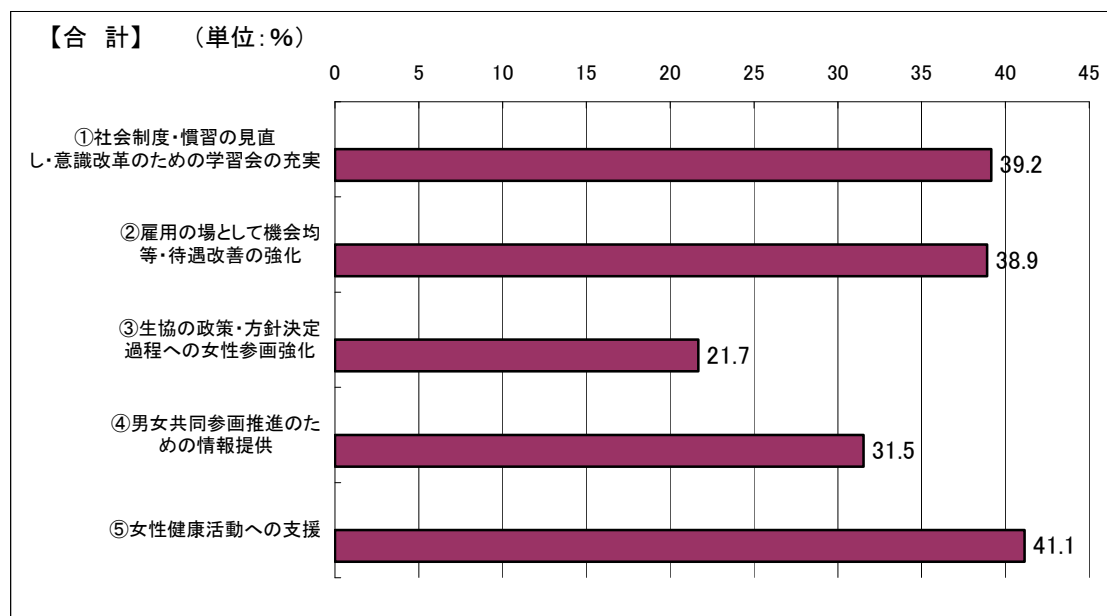
(2) 各種活動については、おしなべて要望が高いが、とくに、「子育て世代に対する食育のとりくみ」、「子育て支援サービスに関する情報提供」、「子育てに関する講座・セミナーの開催」など生協と行政に共通する要望、生協に対する「買い物中の一時保育」、「店舗などへの親子広場の設置」の要望が高い。

地域や行政などと共通するものに関しては、生協の視点（組合員が内容・運営に参加できること）で行って欲しいという意見にみられるように、組合員の実情や要望を踏まえた内容での諸活動を期待する表れと考えられる。

4. 「生協の男女共同参画でもっとも期待すること」について

設問「生協の男女共同参画でもっとも期待すること」（複数回答可）

- ① 社会制度・慣習の見直し・意識改革のための学習会の充実
- ② 雇用の場として機会均等・待遇改善の強化
- ③ 生協の政策・方針決定過程への女性参画強化
- ④ 男女共同参画のための情報提供
- ⑤ 女性健康活動への支援



- (1) 生協への期待として最も高いのは、「女性健康活動への支援」である。具体的な設問項目がないため、どのような支援を期待しているのかは明らかではないが、身体を動かすこと、相談、食生活問題など総合的な取組みが求められていると思われる。
- (2) 「社会制度・慣習の見直し・意識改革のための学習会の充実」についての要望も高い。これは意識調査に見られる「社会的な慣習やしきたり」は男性が優位との回答（83％）と密接に結びついていると考えられる。
- (3) 回答者の年齢層が他県（31～50歳 全体 45.1％）と比べて若い北海道（31～50歳 73.6％）と岩手県（31～50歳 66.7％）では、「雇用の場として機会均等・待遇改善」を求める声が高い。「働くこと」が自分にとって身近な問題であることが要因と思われる。

II. 課題

1. 北海道・東北地連男女共同参画委員会としての課題

- (1) 組合員理事の学習・交流の場を作る。
- (2) 先進国・先進地域の取組みを学ぶ場を作る。

(3) アンケート結果を各生協へ提示し問題提起を行う。

2. 各生協の課題

- (1) 各生協で行っている子育て支援活動を、組合員のすみずみまで理解してもらう取組みを強化する。
- (2) 情報提供と意識改革をはかるきっかけを作るため、県の「出前講座」などを積極的に活用する。
- (3) 「健康活動支援」について、組合員の要望を聞いた上で具体化する。

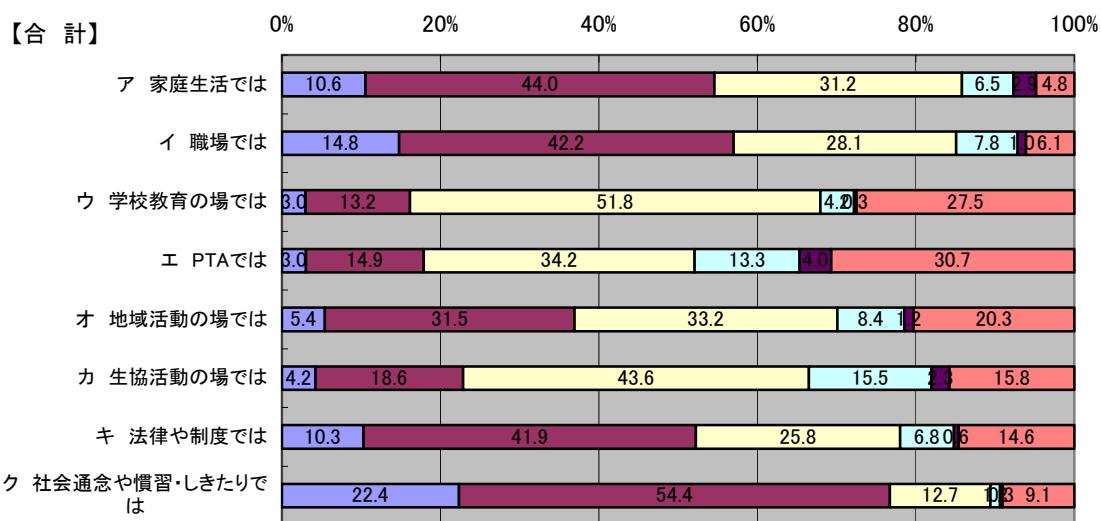
Ⅲ 生協職員アンケート調査結果

Ⅰ. 調査結果の概要

1. 「男女共同参画に関する意識」について

設問「あなたは、社会全体を見回したとき、次に掲げるような分野での男女の地位は、平等になっていると思いますか。」

- ア. 家庭生活では
- イ. 職場では
- ウ. 学校教育の場では
- エ. PTA では
- オ. 地域活動の場では
- カ. 生協活動の場では
- キ. 法律や制度では
- ク. 社会通念や慣習・しきたりでは



■ 1.男性の方が非常に優遇 ■ 2.どちらかといえば男性の方が優遇 □ 3.平等である □ 4.どちらかといえば女性の方が優遇 ■ 5.女性の方が非常に優遇 ■ 6.わからない

- (1) 組合員アンケート結果と比較すると、全体として男性優遇又は男性優位が若干少なくなり、その分「平等」が増加している。生協で働いていることの反映と思われる。また、全体的傾向としては、「生協の活動の場」以外は男性優位になっていることを除けば、組合員アンケート結果と大きな差異は認められない。
- (2) 「男性優遇」は、「非常に」と「どちらかといえば」の合計で、ク) 社会通念・慣習・しきたり (76.8%)、イ) 職場 (57.0%)、ア) 家庭生活 (54.6%)、キ)

法律・制度（52.2%）の順で、社会通念やしきたりでの男性優遇が圧倒的に高い。また、この社会通念やしきたりでの「平等」は（12.7%）に過ぎず、他の項目の比較で最低となっている。

- (3) 「平等」では、ウ) 学校教育の場（51.8%）、カ) 生協活動の場（43.6%）、エ) P T A（34.2%）の順に高い。
- (4) 「女性優遇」は、「非常に」と「どちらかと言えば」の合計で、カ) 生協活動の場（17.8%）でトップであるが、組合員アンケートと比べると圧倒的に低い。かかわり方の相違であろう。

2. 「分担の実態」について

設問「あなた自身の子育て・家庭生活・地域活動での分担の実態に関して」

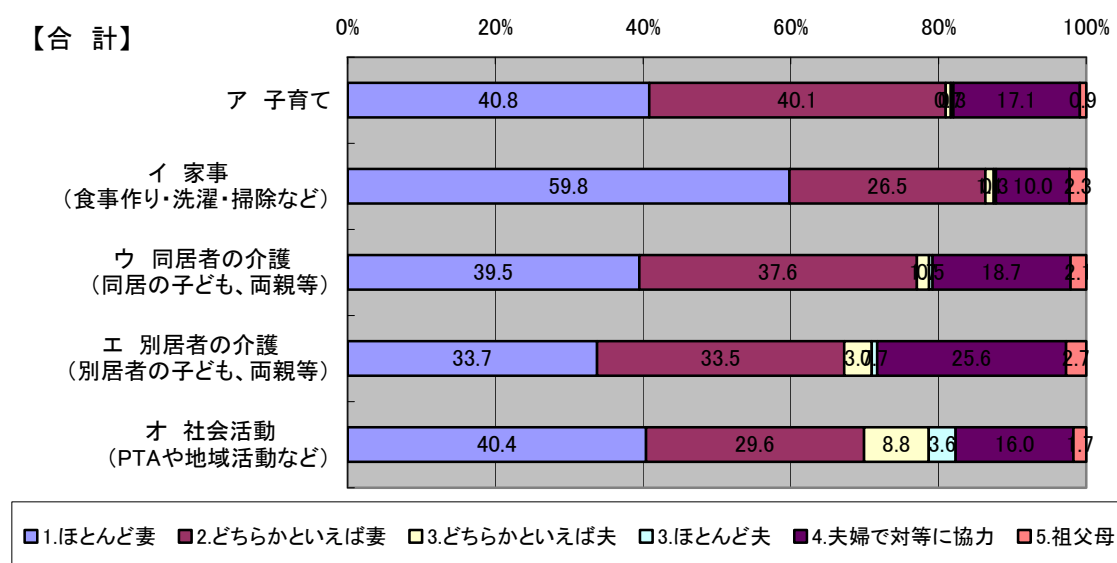
ア. 子育て

イ. 家事（食事作り・洗濯・掃除など）

ウ. 同居者の介護（同居の子ども、両親等）

エ. 別居者の介護（別居者の子ども、両親等）

オ. 社会活動（PTA や地域活動など）

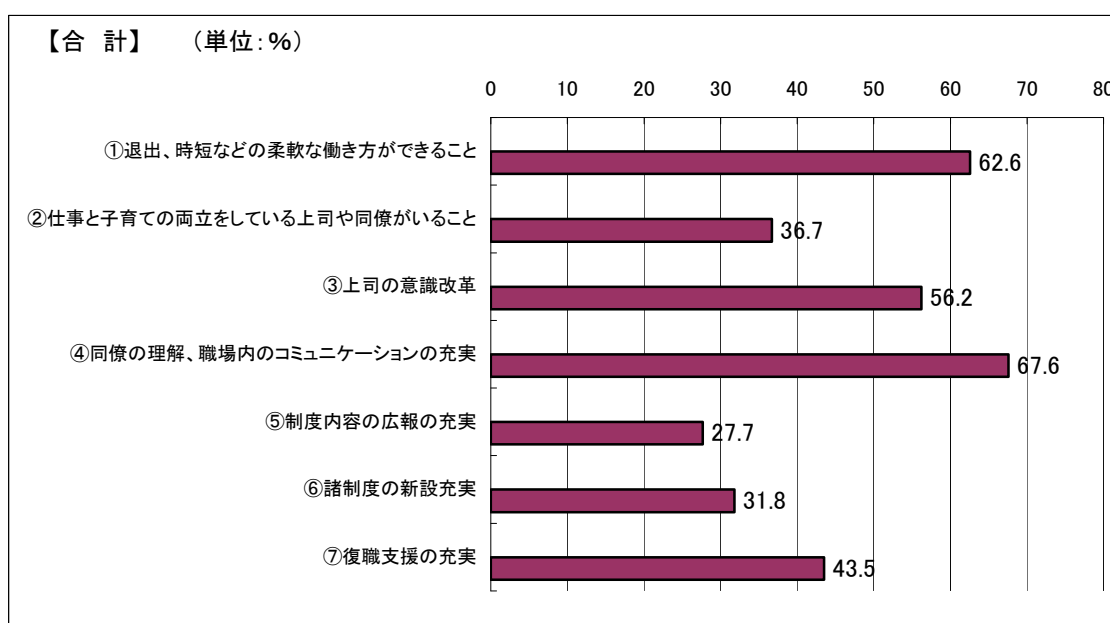


- (1) 「子育て」「家事全般」については、「ほとんど」と「どちらかといえば妻」の合計は80%以上となっている。また全ての項目で妻が担っている実態も組合員アンケート結果と基本的に変わりない。
- (2) しかし、「夫婦で協力」しての割合は、総じて組合員よりも高い。「別居者の介護」について、北海道と秋田県が30%を超えており、他県（合計25.6%）と比較すると非常に高い割合となっている。
- (3) 社会活動については妻主体が70.0%と組合員の81.5%と比較して11.5ポイント低い。その分を夫が引き受ける形になっている。

3. 「支援制度への要望」について（複数回答）

設問「あなたは、残業の削減、育児休暇、育児時短、介護休暇、介護時短取得などの運用を推進するために、職場で重要と思うことは何ですか。」

- ① 遅出、時短などの柔軟な働き方ができること
- ② 仕事と子育ての両立をしている上司や同僚がいること
- ③ 上司の意識改革
- ④ 同僚の理解、職場内のコミュニケーションの充実
- ⑤ 制度内容の広報の充実
- ⑥ 諸制度の新設充実
- ⑦ 復職支援の充実



(1) 「同僚の理解・職場内のコミュニケーション」と「柔軟な働き方ができること」の割合が高く、「上司や同僚の理解があることで柔軟な働き方が可能」という関係性が見て取れる。

(2) 「同僚の理解・職場内のコミュニケーション」では、青森県が 83.3%で他県が 50～60%台であることからすると突出している。

(3) 「復職支援」に関する要望については、北海道と青森県が 50.0%を超えており、他県と比較し 10 ポイント程度高い。

(4) 「制度内容の広報の充実」の割合はさほど高くはないものの、各県とも 30%前後あり、生協としての対応方法を工夫する必要があるようだ。

II. 課題

1. 北海道・東北地連男女共同参画委員会としての課題

- (1) 経営トップ・上司の意識改革のための学習会を開催する。

- (2) 先進企業の取組みなどの情報を提供する。
- (3) アンケート結果を各生協へ提示し問題提起を行う。

2. 各生協の課題

- (1) 職場内のコミュニケーション充実を図るための取組みを強化する。
- (2) 部内報などを利用して、各種制度取得者の体験談などを提供するなど、啓発活動を進める。
- (3) 男女共同参画促進のための方針を策定し実践していく。

以上